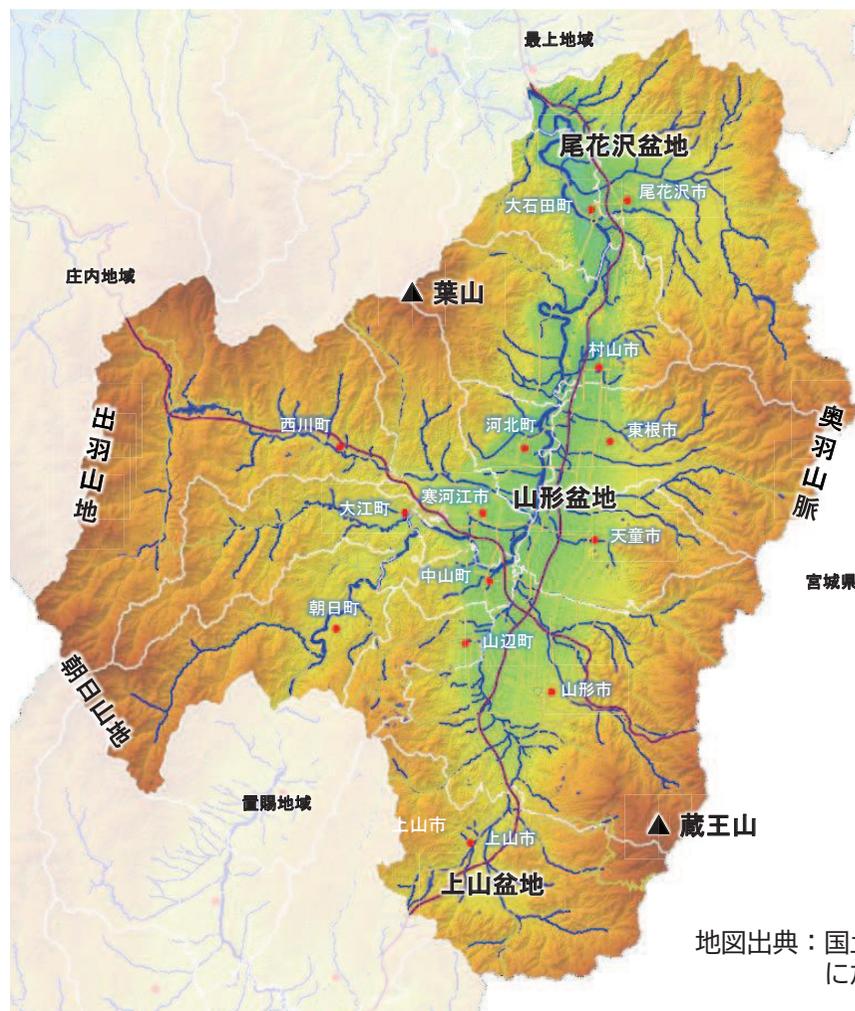
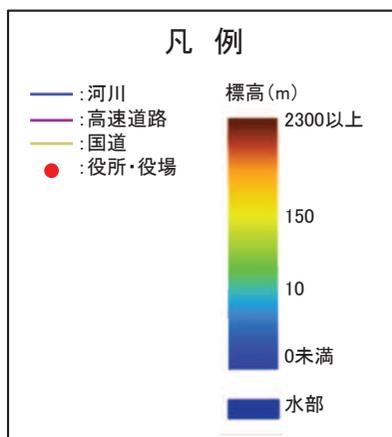


参考資料 自然の恵みと災害リスク
村山地域
最上地域
置賜地域
庄内地域

【参考資料】 自然の恵みと災害リスク 〈村山地域〉

- 村山地域は、東の奥羽山脈、西の出羽山地、南の朝日山地に挟まれた盆地です。北流する最上川の中流部にあり、周囲の山々から栄養分を豊富に含んだ土砂が運ばれることで、豊かな土壌が作られました。
- 一方で、人口密集地直下の活断層による地震や、水が集まる水害（バックウォーター現象等）や生活や経済活動を妨げる雪害など、複合的な災害リスクを抱えています。



地図出典：国土地理院デジタル標高地形図（山形県）に加筆し作成

1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

(1) 果樹王国を支える大地の恵み

- 村山地域は、蔵王連峰、月山、大朝日岳に囲まれた盆地で、その春夏秋冬がはっきりと明確な気候がさまざまな果実や米を育てています。明治初頭から果樹栽培が行われており、特に、長い年月をかけて品種改良されたさくらんぼや、ラ・フランスをはじめとする様々な果実が楽しめます。



出典：山形市

図 さくらんぼ

(2) 歴史と文化を運んだ最上川舟運

- 村山地域には、最上川舟運を利用した紅花等の交易により上方文化がもたらされ、今でも地域至る所にその面影が残されています。その中の一つに雛人形があり、旧家には古今雛、享保雛が数多く残り、雅で優雅な江戸の時代へと思いを巡らせてくれます。



出典：山形県

図 山形蔵王 樹氷

(3) 火山がもたらす温泉と絶景

- 開湯1,900年を超える蔵王温泉をはじめ、上山温泉、銀山温泉、天童温泉、東根温泉など、楽しみいろいろ、個性さまざまな温泉が楽しめます。宮城県との県境となる蔵王連峰は、特別な気象条件と植生(しょくせい)が織りなす世界的に知られる自然の造形美「樹氷」が作られ、その神秘的な美しい景観は世界でも評判で、一目見ようと訪れる人が絶えません。蔵王山の周辺にはスキー場も多く、東北地方を代表する山岳リゾートとして12月初旬から3月にかけて多くのスキーヤーで賑わっています。



出典：山形市

図 最上紅花

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(1) 地震災害リスク

- 山形盆地断層帯は、山形盆地の西縁に位置する活断層帯で、大石田町から村山市、河北町、寒河江市、中山町、山辺町、山形市を経て上山市に至る全長約60kmの南北に伸びた活断層帯です。経験則から求めた平均活動間隔は2,500年程度の可能性が示されており、今後30年の間にマグニチュード7.3程度の地震が発生する確率は、北部で最大8%、南部で最大1%と、我が国の主な活断層の中では「高い」～「やや高い」グループにあります。
- この断層は上山市、山形市西部、寒河江市、河北町などの人口密集地の直下を走っており、M7.8程度の地震が想定されます。

(2) 火山災害リスク

- 蔵王山は、観光や登山など多くの方々に親しまれていますが、東北地方を代表する活火山です。御釜を中心とする活火山で約100万年間の噴火の歴史があります。御釜の直近の噴火は1895年に起こっています。
- 噴火により、火口から噴石や火山灰が噴出します。爆発的な噴火の場合は火砕流（火砕サージ）の発生も考えられます。噴石や火山灰は山の斜面に降り積もりませんが、雨が降ったときにこれらの噴石や火山灰が流れ出し、土砂や岩石を巻き込みながら川を流れ下ります（土石流）。積雪期に噴火が起ると、高温の噴出物が雪を一気に溶かし、泥流が発生することがあります。（融雪型火山泥流）

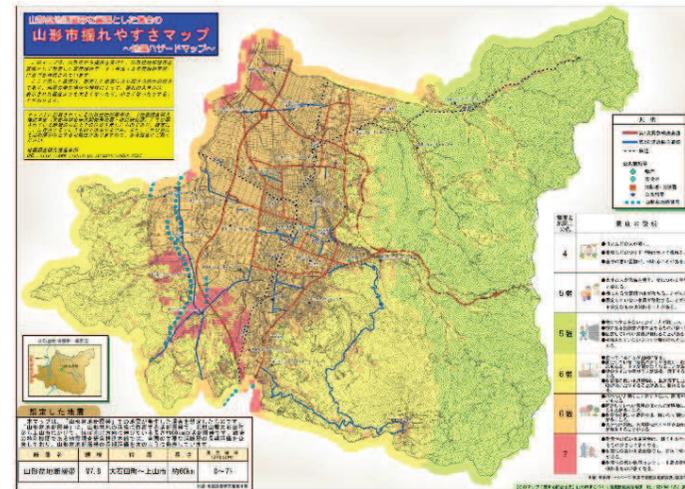


図 山形市揺れやすさマップ (山形市HP)



図 蔵王山ハザードマップ (山形県HP)

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

蔵王山火山防災マップ
発行：蔵王山火山防災協議会
(事務局：山形県防災危機管理課)



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(3) 水害リスク

- 村山地域は、周囲の山々から多くの川が盆地の中央に流れる最上川に向かって集まる地形をしています。流域が樹枝状で東西の分水嶺に源を発しており、急流河川であり流路が短く、山地の降雨が短時間で平地に至り洪水が一時に集中する特性を有しています。さらに、最上川本流の水位が上がると、そこに合流しようとする支流の水が入れなくなり、行き場を失って溢れる「バックウォーター現象」が発生しやすいという特性も有しています。
- 令和2(2020)年7月豪雨では、山形県内に甚大な被害が発生しました。最上川では、堤防からの越水が4箇所、溢水が5箇所発生しました。最上川支流の白水仙では、最上川のバックウォーターにより堤防が決壊、広範囲が浸水しました。

浸水状況 (令和2年7月豪雨)



図 白水仙(東根市)浸水状況 (山形県資料より)

(4) 雪害リスク

- 山形県は県全体が「豪雪地帯」に指定されていますが、村山地域では尾花沢市、大石田町、村山市、西川町、大江町、朝日町、上山市が「特別豪雪地帯」に指定されています。村山地域では、大陸から吹き出す季節風が、日本海で水蒸気を補給した後、奥羽山脈にあたって上昇気流となることで雲が発達し、山間部や山沿いに雪を降らせます。さらに盆地特有の低温が降った雪を溶けにくくし、積雪量が増えやすい環境にあります。
- 2025年の大雪では、山形市でも58cmの最大積雪深を記録するなど、平地部でも大雪となりました。除雪など作業中に発生した多数の人的被害のほか、果樹の枝折れやハウスの倒壊など多数の農林水産被害が発生しました。

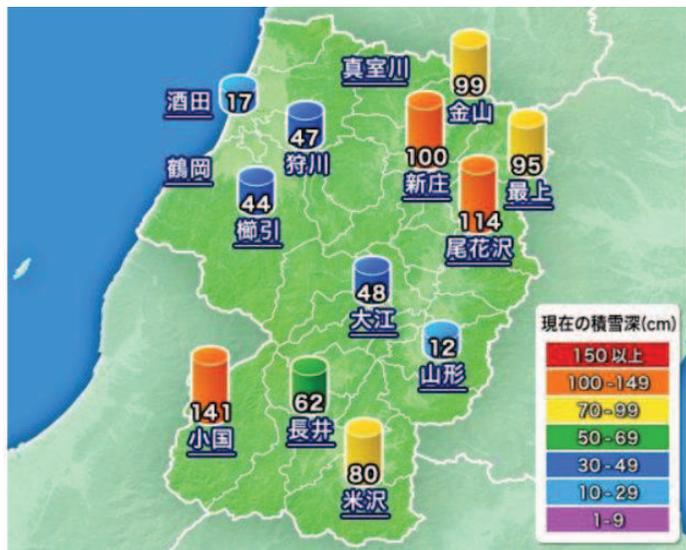


図 山形県雪情報システム 現在の積雪状況 (2026年1月26日12:00)

(5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

重ねるハザードマップ
(村山地域・洪水・土砂災害HM)



リンク先：国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

山形県雪情報システム

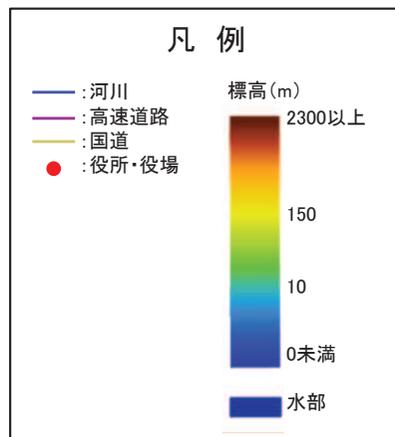


リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

【参考資料】 自然の恵みと災害リスク 〈最上地域〉

- 最上地域は、東は奥羽山脈、西は出羽山地に囲まれており、地域の南部から西部にかけて最上川が貫流し、小国川、鮭川、銅山川等の中小河川が合流し、その扇状地に新庄盆地、向町盆地などの平地が形成され、そこに農地や集落が散在しています。豊富な雪解け水と盆地気候が育む農産物や豊かな森林資源に恵まれています。
- 一方で、盆地の水はすべて「最上峡」という狭窄部に集まり、日本海へと注ぐ構造となっており、この地形が豊かな恵みをもたらすと同時に、水や雪が逃げ場を失うリスクを生み出しています。



地図出典：国土地理院デジタル標高地形図（山形県）
に加筆し作成

1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

(1) 豊かな自然と森林資源

- 最上地域は、四方を出羽山地や月山、神室連峰など高く険しい山々に囲まれ深い原生林が多く残り、全国でも有数の「巨木の里」として知られています。金山町では、町域の4分の3を「金山杉」が占めており、建築で使用される杉は、通常40～50年で伐採されるものが多い中、「金山杉」は樹齢80年以上の大径木となってから伐採・利用します。冬が長く、雪深い気候の中でゆっくりと成長するため、年輪が細かく均一で強度があり、建築用材としてとても優れています。

出典：やまがたへの旅
図 月山出典：金山町
図 金山杉

(2) 火山の恵みと温泉

- 開湯1200年を誇る肘折温泉をはじめとする、赤倉・瀬見の温泉地も日本の原風景を偲ばせる昔ながらの温泉地として多くの人を魅了しています。

(3) 自然と共生する地域の暮らしと文化

- 出羽山地を東西に貫く最上峡の雄大な自然の中を舟で下る「最上川舟下り」は、四季折々に美しい表情をみせる最上峡の絶景を満喫することができます。

出典：大蔵村
図 肘折温泉出典：戸沢村
図 最上川舟下り

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

参考文献：東北森林管理局山形森林管理所最上支所HP

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(1) 地震災害リスク

- 新庄盆地断層帯は、山形県最上地方の新庄盆地の東縁および西縁に位置する活断層帯です。新庄盆地断層帯は、その分布形態から新庄盆地断層帯東部と新庄盆地断層帯西部に区分されます。新庄盆地断層帯東部は、山形県新庄市から最上郡舟形町に至る断層帯で長さは約22kmで、概ね北北東-南南西方向に延びており、東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層です。新庄盆地断層帯西部は、最上郡鮭川村から大蔵村に至る断層帯で長さは約17km、ほぼ南北方向に延びており、西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。
- 新庄盆地断層帯東部は、断層帯全体が一つの活動区間として活動した場合、マグニチュード7.1程度の地震が発生する可能性があり、今後30年の間に地震が発生する可能性は我が国の主な活断層の中では高いグループ（3%以上）に属することになります。
- 新庄盆地断層帯西部では、本断層帯西部では過去の活動が十分に明らかではなく、最新活動時期が特定できていないため、信頼度は低くなりますが、今後30年の間に地震が発生する可能性は、我が国の主な活断層の中ではやや高いグループ（0.1%以上-3%未満）に属しています。

(2) 火山災害リスク

- 大蔵村の肘折は活火山であり、肘折温泉郷は爆発的な噴火により火口が陥没し、形成された肘折カルデラ（窪地）の中にあります。現在、目立った噴気活動はありませんが、地熱活動が継続しています。肘折カルデラの形成は約1万年前であり、それ以降の噴出物を残す火山活動は確認されていません。
- 現在（2026年3月時点）、噴火警戒レベルは「1（活火山であることに留意）」であり、定期的に観測・監視が行われています。

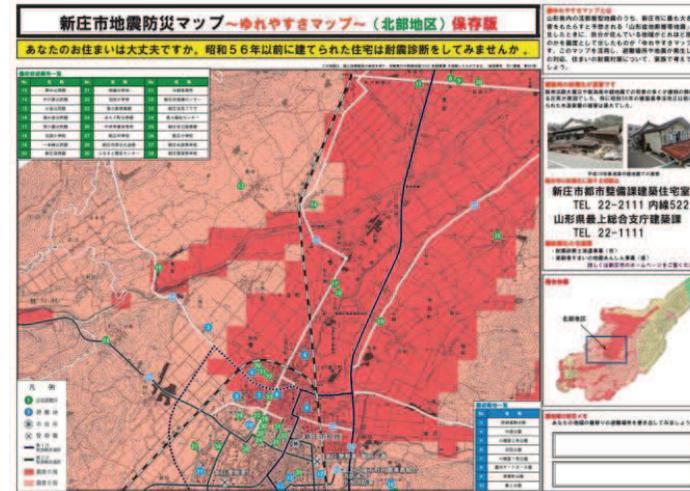


図 新庄市地震防災マップ（新庄市HP）



図 火山灰が堆積して変化した凝灰岩が観察できる
大蔵村の洞窟（大蔵村HP）

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんが
お住まいの自治体のHP
より公開されているもの
をご確認ください。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(3) 雪害リスク

- 山形県は県全域が「豪雪地帯」に指定されていますが、最上地域は全域が「特別豪雪地帯」に指定されている国内有数の豪雪地帯です。特に大蔵村の肘折温泉では2018年2月13日に積雪深445cmを記録するなど、全国でも群を抜いています。積雪そのものもさることながら、雪おろし中の事故などが発生に特に注意が必要です。
- 新庄市にある「独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所」では、最先端の機器を用いて雪に関する研究が行われています。この研究所は自然に近い雪を降らせることができる実験棟を持ち、雪やその影響に関する研究を行う機関として、世界的な評価を受けています。



図 雪壁

(4) 水害リスク

- 最上峡は、出羽丘陵の隆起で内陸湖化した時に誕生した排水路です。ここはまた、今日まで最上川が流路を変えずに、出羽丘陵の隆起分を削り込んでいる場所でもあります。流域では、山々が平地部近くまで迫り、河川が扇状地を一気に流下するため、洪水の流出が短時間に集中し、洪水が発生しやすい地形です。
- 近年、集中豪雨等による水害が全国的に頻発しています。令和6年7月25日から26日にかけて、山形県では庄内・最上地域を中心に線状降水帯が発生し記録的な大雨となり、人的被害と多数の建物被害が発生しました。新庄市を流れる最上川支流の新田川では堤防決壊による河川氾濫が発生しました。

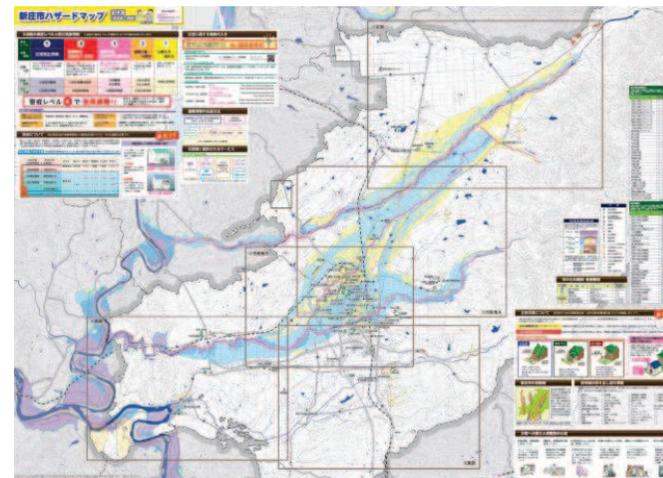


図 新庄市洪水ハザードマップ

(5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

参考文献:山形県雪対策基本計画(第4次)R2.3、気象庁HP

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県雪情報システム



リンク先:山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

重ねるハザードマップ
(最上地域・洪水・土砂災害HM)

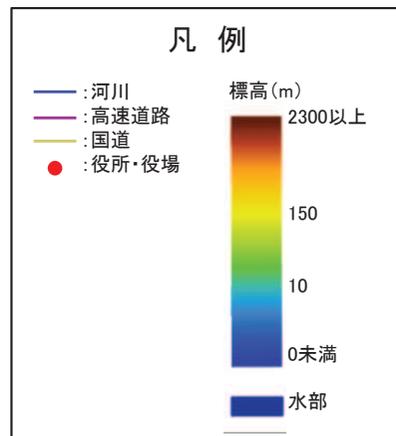


リンク先:国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

【参考資料】 自然の恵みと災害リスク 〈置賜地域〉

- 置賜地域は、東を奥羽山脈、西を朝日山地、南を吾妻山地・飯豊山地、北は朝日山地など、標高2,000m級の山々に囲まれた地形であり、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地と長井盆地、そして小国盆地からなります。明治時代に英国の女性旅行家“イザベラ・バード”がこの地を訪れた時、実り豊かな大地と人情の豊かさから「東洋のアルカディア」と称した美しく豊かな地域です。
- 一方で、急峻な山岳から平野部への急激な地形の変化に加え、最上川の支流が一点に集中する樹枝状の水系のため、山地の降雨が短時間に平地を駆け下り洪水が一時に集中することもしばしば発生します。



地図出典：国土地理院デジタル標高地形図（山形県）
に加筆し作成

1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

(1) 最上川の源流部としての歴史と豊かな水資源

- 山形県の母なる川最上川の最上流部にあたる米沢市は、中世以降城下町として発展してきました。最上川と飯豊山系に源を発する置賜白川・野川と最上川との合流地点には長井市が位置し、良質で豊富な水量に恵まれ、舟運流通の中心地として、紅花の産地である白鷹町とともに遠く関西などとの貿易で栄えました。飯豊連峰の雪解け水が流れ込んでつくり出される白川湖の水没林など、こうした地域の自然が育む多様な景観は、今も最上川流域の豊かさを象徴しています。



出典：やまがたへの旅

図 白川ダム湖岸公園(水没林)



出典：高畠町

図 デラウェア

(2) 火山がつくる温泉

- 地域の南側に広がる吾妻連峰の大部分は、磐梯朝日国立公園に指定されており、四季折々の自然景観が楽しめます。また、米沢の奥座敷である小野川温泉のほか、吾妻の山々には古くから奥羽三高湯の一つと言われた白布をはじめ、姥湯、大平、滑川、新高湯、五色、湯の沢といった特徴が異なる温泉が楽しめる温泉群（米沢八湯）がある地域です。



出典：山形県

図 姥湯温泉



出典：米沢市

図 小野川温泉

(3) 盆地気候が生む豊かな実り

- 盆地特有の「夏は高温多湿、冬は厳寒」という激しい寒暖差が、豊かな農作物を育みます。全国的に有名な米沢牛、生産量日本一を誇る高畠町のデラウェアをはじめとする果樹栽培が盛んであり、酒蔵やワイナリーが数多くある、グルメ観光が充実した地域です。

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(1) 地震災害リスク

- 長井盆地西縁断層帯は、山形県南部の長井盆地の北方から長井盆地西縁、米沢盆地西縁にかけて分布する活断層帯です。長さは約51kmで、南北方向に延びており、断層の西側が相対的に隆起する逆断層と推定されています。全体が1つの区間として活動する場合、マグニチュード7.7程度の地震が発生する可能性（30年以内に、0.02%以下）があります。その時、断層近傍の地表面では西側が東側に対して相対的に2.5m程度高まる段差や撓みが生ずる可能性があります。

(2) 水害リスク

- 置賜地域では、急峻な山に囲まれ滝のように流れる川から構成されています。山間を流れた河川が平地に移行する部分は扇状地が形成されています。この地域の洪水の原因は、主に前線や低気圧による大雨と融雪出水です。
- 令和4（2022）年8月の大雨では、置賜白川に位置する椿雨量観測所（国土交通省）において、昭和42年8月の羽越水害を上回る降雨量を記録し、各地で溢水氾濫が発生、川西町や飯豊町などでは数多くの住家被害と人的被害が発生しました。また、橋梁の損壊、落橋が相次ぎ、小白川に架かる大巻橋、JR小白川橋梁等が被災したことで長井飯豊線（県道10号）ならびにJR米坂線の交通途絶が生じるなど甚大な被害が発生しました。

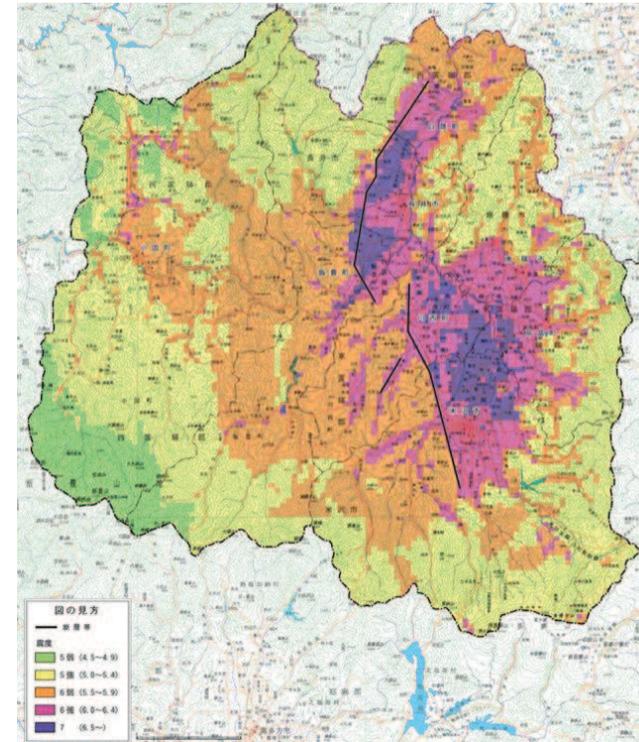


図 長井盆地西縁断層帯マップ（山形県HP）

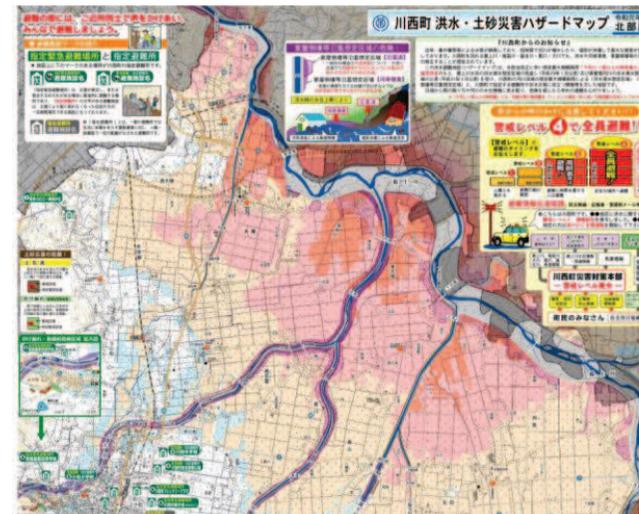


図 川西町洪水ハザードマップ（川西町HP）

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

重ねるハザードマップ
(置賜地域・洪水・土砂災害HM)



リンク先：国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(3) 火山災害リスク

- 吾妻山は、山形・福島県境にある多数の成層火山や単成火山などからなる火山群で、気象庁による常時観測火山に指定されています。北列の多くの火山は山頂火口をもち、東部の一切経山付近には、五色沼、大穴、桶沼、吾妻小富士など、多くの新しい火砕丘や火口が形成されています。有史以降の噴火は、大穴火口とその周辺の爆発で、現在その南～東斜面には噴気地域が広く分布しています。
- 現在（2026年3月6日時点）、大穴火口や燕沢火口列周辺では、火山ガスの噴出が認められており熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。

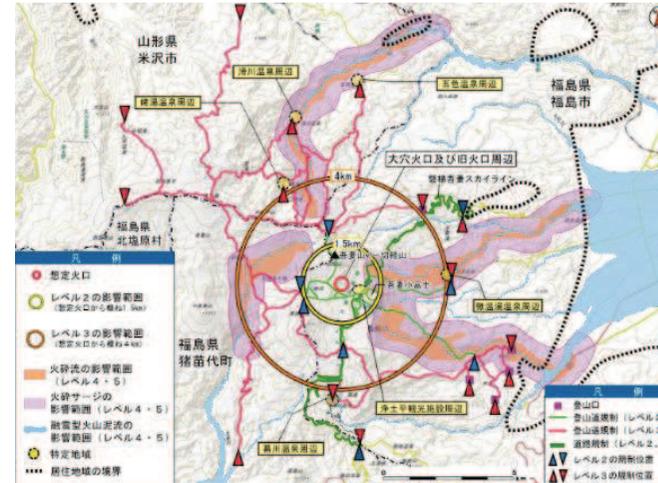


図 吾妻山噴火警戒レベルと規制範囲 (気象庁HP)

(4) 雪害リスク

- 山形県は県全域が「豪雪地帯」に指定されていますが、置賜地域では全域が「特別豪雪地帯」に指定されている国内有数の豪雪地帯です。
- 置賜地域は、吾妻・飯豊・朝日山系に囲まれた急峻な地形が多く、特に雪解けの季節では大規模な雪崩が発生しやすい地域です。2015年の大雪では、主要地方道米沢飯豊線で豪雪に伴う雪崩により、全面通行止め及び片側交互通行が発生し、延べ85日間の長期にわたり地域交通や住民生活等へ大きな支障が生じました。

(5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。



出典：山形県

図 上杉雪灯籠まつり

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

吾妻山の噴火警戒レベル
発国土交通省気象庁



リンク先：気象庁HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

山形県雪情報システム

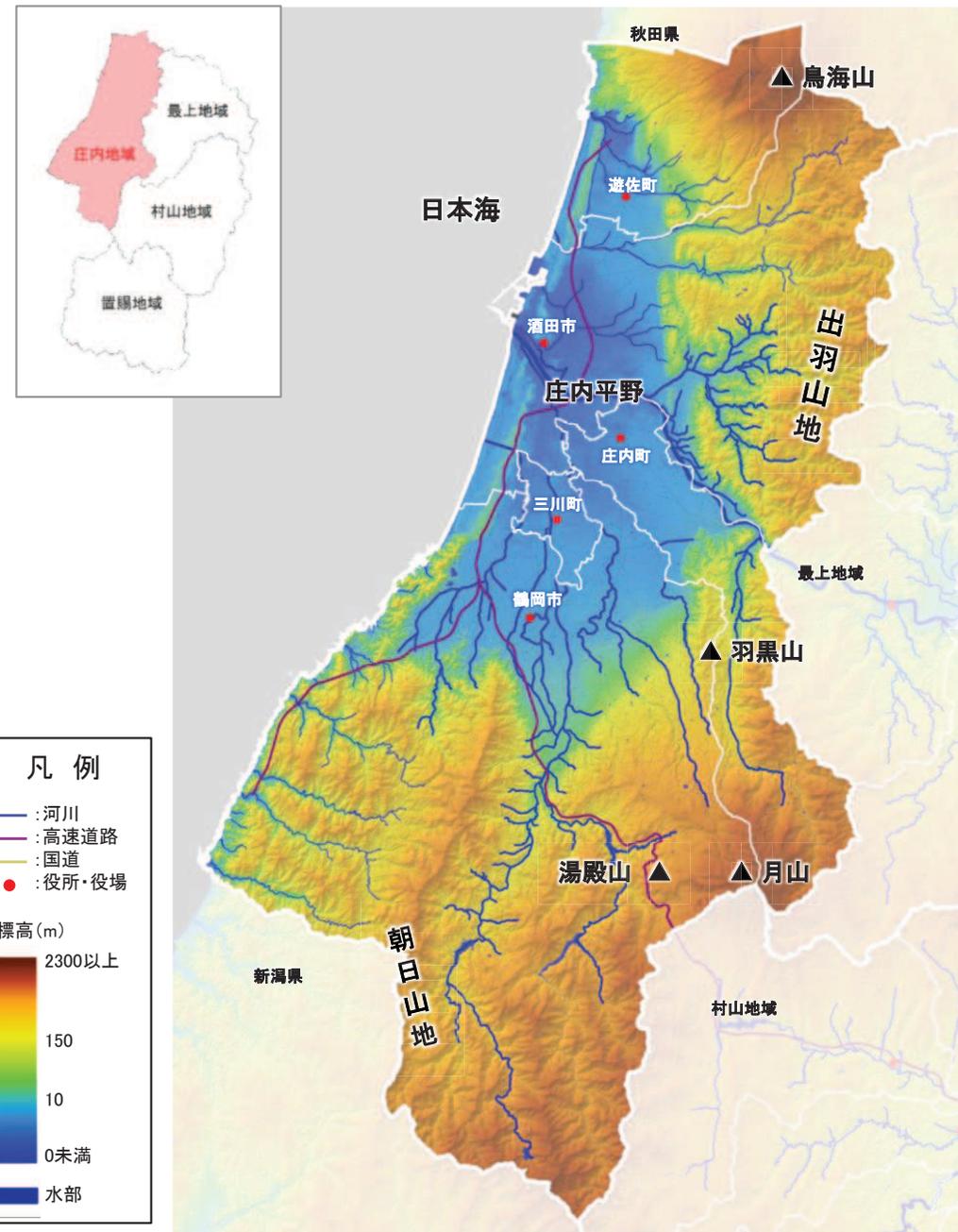


リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

【参考資料】 自然の恵みと災害リスク 〈庄内地域〉

- 庄内地域は、東は出羽山地、南は朝日山地、北は鳥海山を境に秋田県と接するとともに、西は日本海に面した、山と海に囲まれた広大な庄内平野が広がる自然豊かな地域です。庄内平野は、日本有数の穀倉地帯として知られていますが、昔は「潟湖」という海と繋がる大きな湖であったと言われています。そこへ最上川や赤川などの河川が土砂を運び、堆積し、現在の広大な庄内平野が形成されました。
- 河川河口部の平坦な地形にあるため、一度氾濫が生じると平野の広範囲に及び、長期化することが想定されます。
- 冬季になると地吹雪により、たびたび視程障害や吹き溜まりによる交通障害が発生しています。



1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

(1) 豊かな大地が育む食文化

- 庄内地域では最上川や赤川などの河川により形成された広大な平野が広がっており、水稻耕作や果樹栽培などの農業が盛んです。地域の西側には日本海が広がり、四季それぞれに鯛や岩ガキ、ハタハタや鱈など豊かな海の幸が水揚げされ庄内地域の食文化を形成してきました。



出典：庄内観光サイト
図 山居倉庫



出典：庄内観光サイト
図 湯野浜温泉

(2) 最上川舟運の終着地と歴史

- 江戸時代には、最上川舟運の発達により内陸の物資が酒田から上方、江戸へと至る「西廻り航路」で運ばれ、酒田は経済や文化の交流の舞台となり、日本一の大地主「本間家」、廻船問屋「旧鎧屋」、「山居倉庫」など往時の文化や栄華を今日に伝えています。

(3) 千年の歴史を持つ温泉地

- 湯野浜温泉、あつみ温泉、湯田川温泉は、いずれも開湯1,000年を超える温泉で、古来より湯治湯として賑わっており、特に湯野浜温泉は、上山温泉、福島の東山温泉とともに奥羽三楽郷に数えられています。



出典：庄内観光サイト
図 玉簾の滝



出典：庄内観光サイト
図 天然岩ガキ

(4) 鳥海山と大自然の絶景

- 鳥海国定公園は、日本海に裾野を引く鳥海山と飛鳥、秋田の象潟を含む海岸部一帯で、雄大な大自然と絶景を満喫することができます。

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(1) 地震災害リスク

- 庄内平野東縁断層帯は、山形県庄内地方の庄内平野と出羽丘陵の境界部に分布する活断層帯です。遊佐町から酒田市東部、庄内町を経て鶴岡市に至る約38kmの断層帯です。庄内平野東縁断層帯南部では、全体が1つの区間として活動する場合、マグニチュード6.9程度の地震が発生すると推定され、今後30年間に地震が発生する確率が我が国の主な活断層の中では高いグループ（3%以上）に属することになります。
- 1894年（明治27年）に庄内地震（M7.0の直下型地震）が発生し、死者726名、全壊・全焼した建物は6千棟に及びました。。土地の亀裂や陥没、土砂の噴出などが多く生じたことが知られており、地盤の液状化現象などがあったものと推定されます。



図 庄内平野断層帯マップ（鶴岡市HP）

(2) 津波災害リスク

- 庄内地方の鶴岡市・酒田市・遊佐町では、津波災害警戒区域が指定されています。日本海側の地震は、震源が陸地に近い沿岸海域にあることが多く、地震発生から津波到達までの時間が極めて短いのが特徴です。これは太平洋側地域との明確な違いとなります。
- 地域別にみると、鶴岡市の岩礁海岸では海と山が迫っており、逃げ場が限られています。酒田市・遊佐町の平野部では広範囲に浸水する恐れがあることが示されています。



図 遊佐町津波ハザードマップ（遊佐町HP）

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

重ねるハザードマップ
(庄内地域・津波HM)



リンク先：国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(3) 水害リスク

- 庄内平野を流下する最上川下流部では河床勾配は 1/2,000 程度、河口付近では 1/5,000 程度と緩やかになり、沿川の平地部も大きな広がりを持っています。一度氾濫が生じた場合の浸水範囲は、庄内平野の広範囲に及ぶことが想定されます。
- 近年、集中豪雨等による水害が全国的に頻発しています。令和6年7月25日から26日にかけて、山形県では庄内・最上地域を中心に記録的な大雨となりました。庄内地域でも多数の被害が発生しましたが、特に酒田市荒瀬川流域では、氾濫浸水被害など甚大な被害が発生しました。

(4) 火山災害リスク

- もし鳥海山で噴火が起きると、溶岩流、噴石、火山灰、火山ガス、火砕流・火砕サージ、降灰後の土石流、融雪型火山泥流、火口噴出型泥流、岩なだれなど、様々な災害が、複合的に発生する可能性があります。
- 最近では、1974年3月に小規模な水蒸気噴火が発生し、山麓一帯への広範囲な降灰や小規模な融雪型火山泥流が確認されています。この140年ぶりの噴火は規模の小さな水蒸気噴火でしたが、これからも噴火する可能性があります。噴火の前兆減少として、噴気の異常（硫黄臭・色がついている煙など）、地震の増加、地下水や湧水の異常などが挙げられます。

(5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

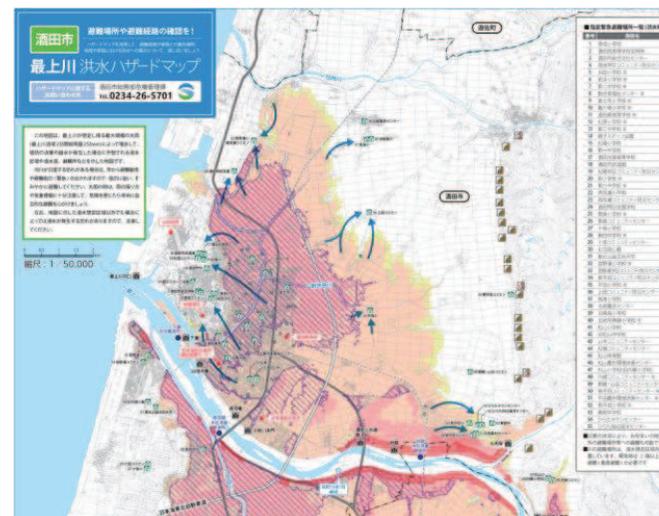


図 酒田市洪水ハザードマップ (酒田市HP)

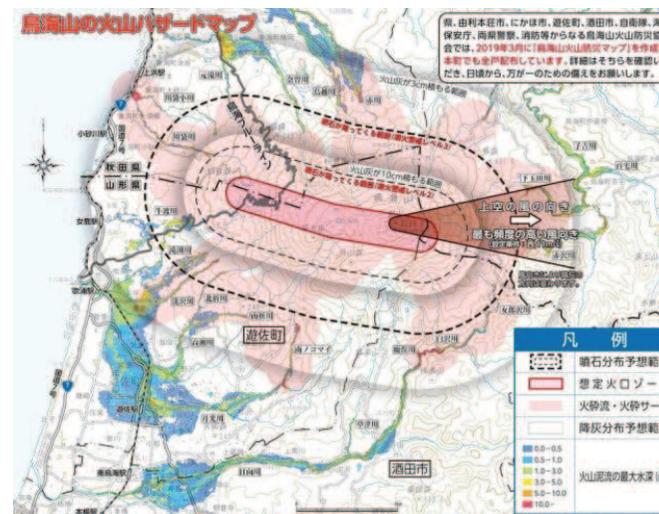


図 遊佐町火山ハザードマップ (遊佐町HP)

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

重ねるハザードマップ
(庄内地方・洪水・土砂災害HM)



リンク先：国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

鳥海山火山防災マップ
発行：鳥海山火山防災協議会
(事務局：山形県防災危機管理課)



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。